

平成16年11月17日

意匠の類似範囲に関する事例紹介

社団法人電子情報技術産業協会 法務・知的財産権総合委員会運営委員会委員長

(株)東芝 知的財産部デジタル著作権担当部長

光主 清範

意匠の類否判断基準

「意匠審査基準」における「意匠の類否判断」より
平成14年1月特許庁審査業務部
意匠課 意匠審査基準室
22.1.3.1(27頁)

(3) 意匠の類否判断

意匠の類否判断とは、両意匠が生ずる**美感の類否についての判断**をいう。具体的には、上記(1)^{注1}及び(2)^{注2}についての共通点及び差異点を**意匠全体として総合的に観察**して、それらが両意匠の類否の判断に与える影響を評価することにより行う。なお、それらの共通点及び差異点が意匠の類否判断に与える影響は、**個別の意匠ごとに変化するもの**であるが、

注1:(1)は意匠に係る「物品」の共通点及び差異点の認定

注2:(2)は「形態」の共通点及び差異点の認定

一般的には、

見えやすい部分は、相対的に影響が大きい。
ありふれた形態の部分は、相対的に影響が小さい。
大きさの違いは、当該意匠の属する分野において常識的な範囲内のものであれば、ほとんど影響を与えない。
材質の違いは、外観上の特徴として表れなければ、ほとんど影響を与えない。
色彩のみの違いは、形状又は模様の変異に比して、ほとんど影響を与えない。

といえる。

検討の視点

意匠登録要件の基準としての「類似」の範囲
審査判断の透明性
審査判断の一貫性

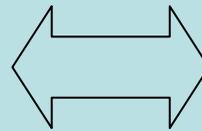
産業構造審議会知的財産政策部会 第1回意匠制度小委員会 配布資料2
「デザインと意匠制度に係る検討の視点」 意匠審査の現状(P7～P8) より

具体的事例の紹介

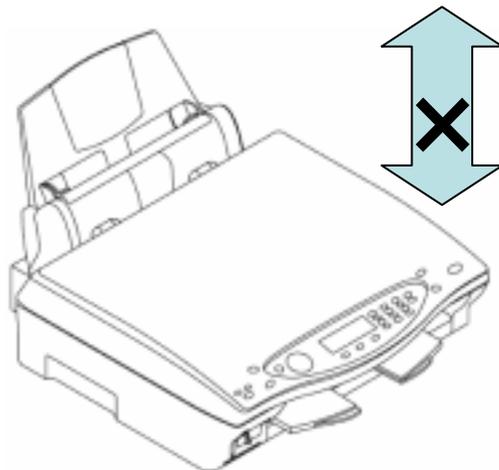
物品名:コピー、スキャナー、ファクシミリ機能付プリンター



1171683 (H15.02.28登録)



1171804 (H15.02.28登録)

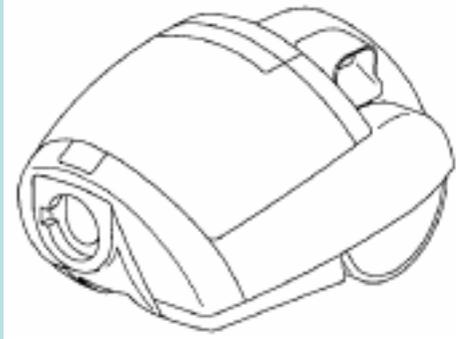


1171687 (H15.02.28登録)

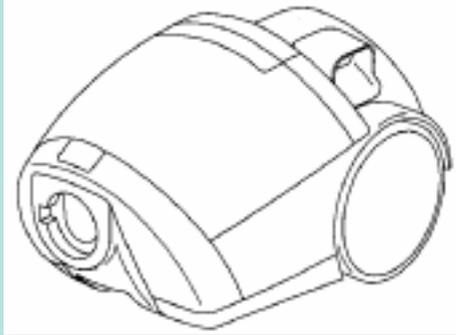
* 前面中央の扁平ほぼラグビーボール状の形状をどの程度評価するか？

物品名：電気掃除機

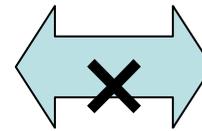
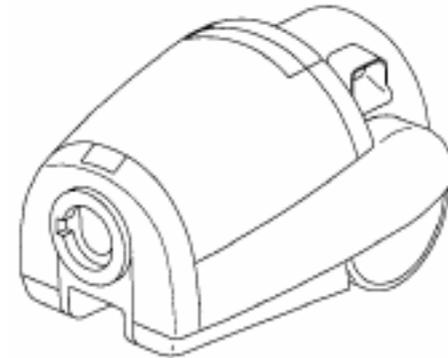
登録第1076334号(本意匠)



登録第1076754号(関連意匠)

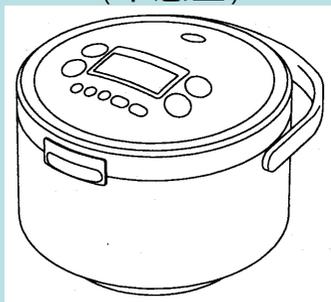


登録第1093830号

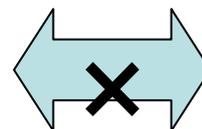


物品名:炊飯器

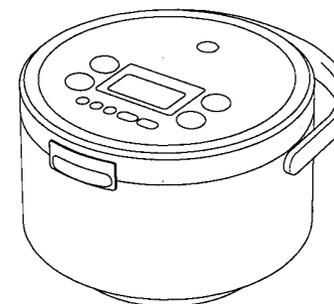
登録第1092929号
(本意匠)



登録第1093105号
(関連意匠)



登録第1092931号



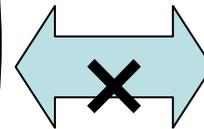
物品名：液晶モニター、ビデオテープレコーダー付 ビデオカメラ



意匠登録1068315号



意匠登録1068315号の類似1



意匠登録1068325号

前方形状多少異なるも非類似で別登録。
この分野は他にも狭い範囲での登録が多い。

物品名:デジタルオーディオディスクレコーダー



登録1101503号

物品名:デジタルビデオディスクプレーヤー



登録1101787号

物品名:デジタルオーディオディスクプレーヤー

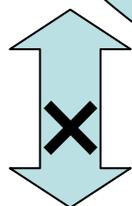


登録1101788号

物品名:デジタルオーディオディスクレコーダー



登録1101789号



4件関連



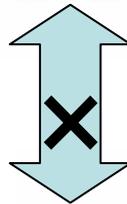
物品名:テープレコーダー

登録1089676号

上記4件とは非類似、物品非類似との判断

物品名：車載用デジタルオーディオディスクプレーヤー付ラジオチューナー

意匠登録1185079号



意匠登録1185975号

オーディオディスクの挿入口の有無以外は、同様のデザインコンセプトであるが非類似として登録されている。

物品名：車載用チューナー付オーディオディスクプレーヤー



意匠登録1124375号



意匠登録1132219号



オーディオディスクの挿入口の有無以外は、同様のデザインコンセプトであるが非類似として登録されている。

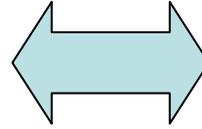
判例における類似判断事例

神戸製鋼所の意匠権

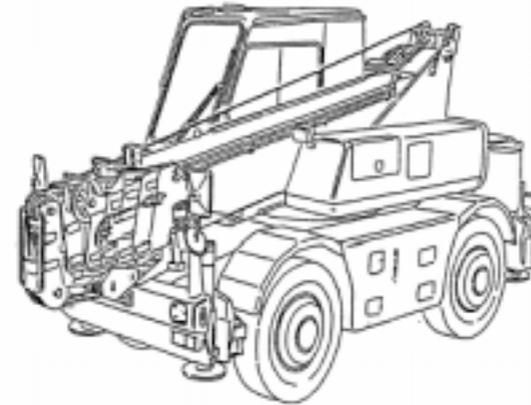
意匠登録第766928号



類似



被告の意匠



裁判所の判断:

- ・神戸製鋼所の意匠権は、収納状態におけるブームが、キャビンと機器収納ボックスの間に前下がりで設けられており、公知意匠には見当たらない新規な点である。
- ・両意匠は、ブーム、キャビン、機器収納ボックス、エンジンボックスの構成態様及び配置関係が一致し、共通の美感を与える。

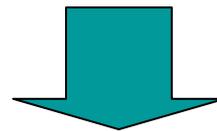
類否の判断基準(一貫性、透明性、正確性)の把握が難しい。

類否判断基準の明確化の必要性

・当該分野においてどのような基準で類否判断が行われているか？

「デザインの創作価値」と「意匠権の価値」のリンク

デザイン創作の価値に応じた意匠権の確保



拒絶理由通知の内容の充実化。類否判断のポイントの明記。出願人側にとって、特許庁側が考える個別・具体的判断基準の把握が可能となる。

具体的事例において対応できるように、「意匠審査基準」における「意匠の類否判断基準」をブレイクダウン。類否判断に関する運用基準等の策定(類似判断が狭くなる運用基準等は不要)

新規商品分野、斬新で独創的なデザインについては類似幅を広く認定。

終了